

# まぼろしへのかけはし

基本理念 希望のある医療

## 明けましておめでとうございます

病院事業管理者 病院長 大野 徹

今年のお正月は各地で寒波が吹き荒れましたが、皆様はいかがお過ごしでしたか。医療の現場では長期休みのほうが、かえって大変なことが多いですね。



### 当院の現状

昨年4月に岡山大学から2名の整形外科常勤医師に来て頂き、入院治療が再開されましたが、一方では内科医師3名の退職がありました。内科の入院・外来診療に支障をきたし、救急対応も十分に出来ない状況となり、皆さまにはご迷惑をおかけしています。多くの医師に勤務してもらうためには、地域の皆さまのご協力とともに、大学医局との連携が必須であることを、院長就任後の7年間で痛感しています。このような厳しい状況ですが、当院では専門職が種々の資格を取り、垣根を越えたチーム医療をおこなうことによって、良い医療を提供できるように努力しています。

### 医師不足の問題

政府は平成19年と比べて医学部の定員を約1,500人増やしていますが、地方の病院勤務医師の不足はまだ改善されていません。この理由として、診療科（勤務が厳しい診療科を避ける）、地域（都市部に医師が集まる）、勤務形態（パート、非常勤医師の増加）、勤務施設（病院以外に老人保健施設などでの勤務）などで医師が働き方を自由に選択できるようになってきたことがあります。自由度が増したという意味では良いことですが、地方の中核病院にとっては苦しい状況です。兵庫県では問題解決のために地域医療支援センターを設け、医学生に奨学金を出して毎年20人の地域で働く医師を養成しています。すでに医師として勤務しているのは35名で医学生が99名です。今のところは兵庫県北部で勤務する医師がほとんどですが、いずれ高砂にも来てほしいと思っています。

### 地域における病院の役割

すべての団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けて、昨年6月に地域医療・介護総合確保推進法が国会で成立するなど、日本の医療は大きな変革の時期を迎えています。まず、諸外国と比べて多すぎる急性期病床を減らし、地域に見合った病床に再編するため、現状の病床機能を厚生労働省に報告する制度が始まりました。当院は急性期として報告を済まし、今後も急性期病院として地域の医療を支えていくつもりです。

次に、“住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるように”医療・介護・予防・生活支援などを一体的に提供する“地域包括ケアシステム”の構築が求められています。病院と診療所、薬剤師、訪問看護ステーション、ヘルパーなどとの連携が必要となり、その中で医療を担う病院の果たす役割は大きいと思います。

しかし、個人的には患者さま中心ではなく、医療費削減のために入院を制限し、在宅療養にシフトさせるための“美しい言葉”と思われる仕方がありません。

少子高齢化のために全国にある自治体の約半数が2040年までに消滅する可能性がある」と報道され、

話題となっています。中核となる医療機関と立派な教育施設の存在が自治体を消滅の危機から救うことが出来ると思いますので、当院は自立して存続しなければならないと思っています。

今後も良質な医療を提供できるように努めますので、ご理解とご支援いただきますようお願い致します。

## お知らせ

### 1. 最先端技術を搭載したCTを導入しました

1月5日、CT装置が64列マルチスライスCTに更新されました。

今回当院に導入したCT装置は**広範囲を短時間で撮影でき、細やかな病変や血管描出に優れています。**しかし一方で被ばく線量の問題もありましたが、特殊な装置(IMR)を搭載することにより、従来の検査と比較して**少ない線量**で同等の画像を作成できるようになりましたので、安心して検査をお受けいただけます。



### 2. 今月のホッとひと息寄り道講座

テーマ 「緩和ケア」誤解していませんか？  
～生きることを支えるケア～

講師 緩和ケア内科医師

日時 1月28日(水) 10:00~10:30

場所 正面玄関ホール 公衆電話前



### 3. 耳鼻いんこう科の診療体制が変わりました

曜日	月	火	水	木	金
受付 8:30 ~11:00	○	×	○	×	○

### 4. インフルエンザが猛威をふるっています

“うがい・手洗い・マスク装着で予防しましょう！”

潜伏期間 1~3日

症状 突然の高熱に伴い頭痛・咳・筋肉痛・関節痛

インフルエンザにかかってしまったら何よりも**十分な休養・十分な水分補給**で、体の免疫機能を高めましょう。また、部屋の湿度を50~60%に上げることにより、ウイルスの感染力はぐっと下がります。(家庭内感染をある程度防げます)

※他人に感染させないレベルには**解熱後2日必要**です



きほうへのかけはし

に関するお問合せは、

地域医療連携室までお願いします。

連絡先 〒676-8585 兵庫県高砂市荒井町紙町33番1号

TEL 079-442-3981(内線5146)

FAX 079-443-1401

ホームページ <http://www.hospital-takasago.jp/>